

令和3年10月11日

意見発表

小野寺委員

私は、公明党県議団を代表して、まず、当委員会に付託された関係議案に賛成することを表明しておきます。

それでは、意見を申し上げたいと思うのですが、国際文化観光局関係については、質疑の中で様々要望も申し上げました。あえて言うならば、県民ホールのバリアフリー、エスカレーターの設置についてお尋ねしましたが、なかなかお金のかかることでもありますし、すぐには決まらないことも理解するのですが、県民ホールは大切な県民の財産でありますので、ライフサイクルをしっかりと見据えた上で、どのように充実をさせて県民満足度を上げていくのかという観点で、もう45年たっている建物ですから、これからの施設の整備にどこまで投資するのかということまで含めて、今後検討していただきたいと申し上げておきます。

次に、スポーツ局関係です。

セーリングの普及策についてお尋ねしました。学校教育との連携について質疑させていただいたときには、あまり積極的な答弁はいただけなかったと思うのですが、この連携をしっかりと模索し続けていただきたいと思います。神奈川県高等学校体育連盟の資料を見たところ、メジャーな部活と比べれば大変少ない数ではありますが、高校ヨット部の数は、平成27年度までは3つだったのが、28年度には5つに増えて、30年度には8つになり、そして令和元年度には11と増えてきています。部員数も、平成26年度には50人だったのが、令和元年度には77人になっているということです。こうした流れをぜひ加速させるために、スポーツ局としてできることはないか考えていただきたいと思います。

基礎自治体の事例で、東京都江東区では、区立小中学校セーリング部をつくっています。これは平成20年から始まっているのですが、将来の国体やオリンピックに出る選手を育成することを目的に、区内の子供たちにセーリングの技術を教えています。今、部員は28名ということで、毎週日曜日に、若洲のヨットの訓練所で練習しているようです。

本県でも、オリンピックに向けてセーリング訪問教室などを開催していただいていた。同じ形で五輪後も続けていくことはなかなか難しいところでもあると思いますが、形を変えてでも、こうした流れを途絶えさせてはいけないと思っていますので、今後の取組をよろしくお願ひしたいと思います。

スポーツ局とは、神奈川県のスポーツ行政、スポーツ施策を統合していく立場だと思います。その立場で、ぜひ、教育の現場との連携をお願ひしたいと思います。スポーツ局長もおっしゃっていたように、レガシーはオリンピックが終わったら勝手に出来上がっているものではなく、これから築き上げていくものだと思います。それが仕上がったときに、スポーツ局のオリパラに関するミッションが終わると捉えて頑張っていたいただきたいと思います。

また、質疑の中では触れる時間がなかったのですが、自転車ロードレースについても同じことが言えるのではないかと思います。オリンピックを契機に始まったレガシーを、ぜひ、築き上げていただきたいと思います。オリンピックのロードレースでは、つい1週間前にツール・ド・フランスを走り終えた世界の一流選手が、日本の風景の中を走っていくという、私自身、大変な驚きと感動をもってレースを見てきましたが、特に、史上屈指の難関の山岳コースということもあり、本当にすばらしいレースだったと思います。

今回、コースとなった場所は、今後、サイクリストの聖地になる可能性もあるのではないかと考えていますし、そうしたところに多くのサイクリストが集まってくるのではないかと考えています。相模原市などは、今後別の自転車のプロのレースを誘致することを考えているようですし、また、レースだけではなくサイクリングや自転車を活用して、サイクルツーリズムという地域活性化にも意欲を示しているようです。ぜひ、神奈川県としても、市や、あるいは今回コースに入っていた山北町など、そうした市町としっかり連携して、せっかくこのすばらしいレースが本県の中で繰り広げられたわけですから、それをしっかりレガシーとしていただくために頑張ってもらいたいと思います。